

PM2.5 対策（中長期的課題）

1 現状（環境目標値の達成状況）

- 平成 23 年度から常時監視を開始し、環境基準（現行の環境目標値と同値）について、平成 23 年度から平成 25 年度は全測定局で非達成、平成 26 年度は 3 局で達成、平成 27 年度は 15 測定局で達成、平成 28 年度以降は全測定局で達成している。
- ※平成 23 年度は 2 局、平成 24 年度は 8 局、平成 25 年度は 13 局、平成 26 年度は 17 局、平成 27 年度以降は 18 測定局で測定
- 直近 2 か年で環境基準を達成しているが、今後も経過を注視していく必要がある。

2 発生源別の寄与割合の推計結果

- 平成 27 年度における PM2.5 発生源別寄与割合を推定したところ、「名古屋市域外の寄与、非線形効果の補正」が約 8 割で最も多く、次が名古屋市域の「その他人為発生源」、「船舶」、「自動車」、「作業機械」の寄与が大きかった。

3 シミュレーション結果

<予測条件>

現状の施策を継続した場合（単純将来）と、以下の対策をした場合（対策将来）の環境濃度を予測する。

項目	対策
自動車	- FCV・PHV・EV への買い換え促進（乗用車） - 最新規制貨物車への買い換え促進
その他人為発生源 （家庭・業務）	- 省エネルギー住宅、建築物の普及 - 高効率機器（給湯器・ヒーター）の普及 - 太陽熱利用設備導入促進 - 環境配慮型事業活動
作業機械	- 工事における低排出型建設機械の使用 - フォークリフトの電動化
固定 VOC 発生施設	給油所給油時ベーパー回収システム（Stage II）の導入促進

<予測結果>（資料 1 の 9 ページ参照）

- 対策将来においても、平成 35 年度は 18 測定局中 13 局で環境目標値を非達成、平成 42 年度は 6 局で非達成と予測された。
- しかし、現況では全測定局で環境目標値を達成しており、シミュレーションでは全測定局において平成 35 年度、平成 42 年度ともに減少傾向と予測されたことを考慮すると、今後も全測定局で環境目標値を達成すると考えられる。
- 対策を行うことで、平成 35 年度は年平均値で $0.1 \sim 0.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、98 パーセンタイル値で $0.1 \sim 0.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 改善すると予測、平成 42 年度は年平均値で $0.1 \sim 0.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、98 パーセンタイル値で $0.1 \sim 0.8 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 改善すると予測された。

4 効果的な対策の検討

- ・ シミュレーションの予測条件とした対策を市として積極的に進める。
- ・ 寄与割合が比較的大きいが、市が主体的に取り組むことが困難な「船舶」への対策について、名古屋港管理組合に大気環境改善に向けた働きかけを行う。

5 環境目標値の達成時期

- ・ シミュレーション結果を踏まえると、今後も環境目標値の達成を維持できる見込みではあるが、現状では達成してから2か年しか経っておらず、経過を引き続き注視していく必要があるため「達成を維持する。」とする。